

令和6年度四国ブロックスポーツ少年団軟式野球交流大会兼

第46回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会四国予選会競技規則及び取り決め事項

本大会は令和6年度公認野球規則及び競技者必携に定める規則細則、競技運営に関する取り決め事項、競技に関する特別規則を準用し、詳細については下記の通りとする。

1 規則細則

(1) チーム編成及びベンチに入れる人員について

① チーム編成と競技者の背番号は以下に統一する。

- ・代表指導者（監督） 1名 背番号30番とする。
- ・引率指導者 1名 チームで統一した帽子を着用
- ・団員（選手） 14名以内 背番号0番から99番までとし、代表団員（主将）は背番号10番とする。

※ 代表指導者（監督）・引率指導者・団員（選手）は、チームで統一した帽子を着用する。

※ 実施要項で表す大会参加者は、上記16名を表す。

② ベンチに入れる人員

上記①の他に、指導者（コーチ）2名以内、スコアラー1名、熱中症対策スタッフ2名以内のベンチ入りを認める。

- ・指導者（コーチ） 2名以内 背番号28・29番とする。
- ・スコアラー 1名
- ・熱中症対策スタッフ 2名以内

※ 上記のベンチ入りする者は、チームで統一した帽子を必ず着用すること。

③ スコアラーについて

スコアラーを必要とする場合は1名のみベンチ入りを認めるが、団員以外とし、シートノックやマネージャー行為など、記録に関する以外以外の行為は認めない。

※ ベンチ入りの際はチームで統一した帽子を着用する。

④ 熱中症対策スタッフについて

熱中症対策として、1チーム2名の保護者がベンチに入ることを認めるが、熱中症対策に関すること以外の行為は認めない。また、対戦する両チームの分け隔てなく中立的な立場で対応すること。

※ ベンチ入りの際はチームで統一した帽子を着用する。

※ スコアラー、熱中症対策スタッフを加えたベンチ入り最大総数は21名とする。

(2) 用具、装具等及び禁止事項について

- ① 打者用ヘルメットは、S・G マークのついた全日本軟式野球連盟公認のものを7個以上用意し、打者、次打者、走者及び走塁指導者（ベースコーチ）は、全員両側にイヤーフラップの付いたものを着用すること。
- ② 捕手は、捕手用ヘルメットを着用すること。（捕手用ヘルメットはマスクが分離したものを使用）また、プロテクター、レガース、ファウルカップを着用すること。
- ③ バットは、全日本軟式野球連盟公認（JSBB マーク入り）のものを使用すること。なお、木製については公認制度を適用しない。
- ④ 素振り用の鉄棒（鉄パイプを含む）、バットリングはベンチに持ち込んで서는ならない。
- ⑤ 同一チームの代表指導者（監督）、指導者（コーチ）、団員（選手）は、同色、同形、同意匠のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子を着用すること。
- ⑥ 金属スパイクの使用を禁止する。

(3) 応援団等のマナーについて

- ① 球場での道具（大太鼓、トランペット等）を使用しての応援は一切禁止する。
- ② 投手が投球動作に入ったら、応援はやめること。
- ③ 自チーム及び相手チームの団員（選手）・審判員に対するやじ・ブーイングは、行わないこと。

- ④ その他、目に余る応援・試合進行の妨げになる応援・近隣住宅の迷惑となる応援等については本部、審判団より嚴重注意を行う。

2 競技運営に関する取り決め事項

- (1) 投手・捕手間は16メートル、塁間は23メートルとする。
- (2) その日の第1試合目のチームは、試合開始予定時刻の30分前までに、大会本部が用意する打順表（登録された者の全員を記入したもの）1部（6枚複写）を持って代表指導者（監督）と代表団員（主将）と一緒に本部へ提出し、登録メンバーの照合を受けて攻守の決定を行う。打順表へは出場する選手全員を記載し、フリガナをつけること。
- (3) 第2試合目のチームは、前の試合の3回終了時に打順表を提出すること。
- (4) 試合開始予定時間前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
- (5) 試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (6) 試合前のシートノックは、行わない。
- (7) 次の試合のバッテリーは、前の試合開始後1時間を経過すれば、球場内のフェールグラウンドでの投球練習を許可する。その際、指導者が同伴すること。捕手はプロテクター、レガース、ヘルメット、ファウルカップを、必ず着用すること。
- (8) 球場内でのフリーバッティング（ハーフバッティング、ロングティーバッティング含む）は認めない。
- (9) ベンチ内での電子機器類（携帯電話、パソコン等）及び携帯マイクの使用は禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。
- (10) 攻守交代時で最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
- (11) 試合中、代表指導者（監督）はグラウンドに入って指示を与えることができる。
- (12) 試合のスピード化に関する事項
 - ① 試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。
 - ② 投手の準備投球数は、球審の指示により行うこと。
 - ③ 攻守交代は駆け足で行うこと。また、監督のマウンドへの行き帰りは小走りで行うこと。
 - ④ 投手は、必ず投手板について捕手のサインを見ること。
 - ⑤ 次打者は、必ず次打者席へ入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。
 - ⑥ 打者は、みだりにバッターボックスを外さないこと。サインもボックス内で見ること。
 - ⑦ 内野手間のボール回しは禁止する。
 - ⑧ 代打、代走の通告は氏名と共に「代打者」「代走者」の背番号を球審に見せて行うこと。
- (13) その他
 - ① ファウルボールの処理については、両チーム選手が行うこと。
ベンチ前から外野方向へのボールは両ベンチのチーム選手が処理し、また、バックネット前のボールは攻撃チームの選手が処理しボールボーイ（ガール）に返すこと。
 - ② 試合終了後のグラウンド整備は、両チーム選手が行うこと。
 - ③ 小雨の場合、日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行うことがある。
 - ④ 雨天の際の連絡等について
午前中見合わせて午後から行う場合があるので、大会本部からの連絡等について注意すること。

3 競技に関する特別規則

- (1) 本大会の試合は、6回戦とする。ただし、健康維持を考慮し、試合開始後1時間30分を経過した場合は、新しいイニングには入らない。同点の場合は（4）に定めるタイブレーク方式を行う。
- (2) 本大会の試合については、5回終了又は1時間30分を経過すれば試合成立とする。
- (3) 本大会において6回終了時、同点となった場合は次のイニングからタイブレーク方式に入る。タイブレーク方式は継続打順で、前回の最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁走者とする。すなわち、0アウト・二塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- (4) タイブレーク方式は、投手の球数制限を考慮し、2回までとする。尚同点の場合は、その回の出場選手9名の抽選とする（投手からの守備順序で行う）。
- (5) 5回終了又は1時間30分経過以前に降雨、日没等で試合続行が困難となった場合は、本部の指示に従うものとする。

- (6) 5回以降得点差(7点差)、降雨、日没等でコールドゲームを適用するが、1回戦・準決勝は3回以降10点差のコールドゲームを適用する。
- (7) 決勝戦を除いて、原則として、ダブルヘッダー(同1日2試合)を行わない。ただし、降雨等により大会運営上やむを得ない場合は2試合行うことがある。
- (8) 投手の投球数制限については、健康維持を考慮し、1人の投手の投球数は、1日70球以内とする。(ただし、4年生の場合は60球) 打撃中に70球及び60球に達した場合は、その打者の攻撃中に攻守交代となるか、打撃が完了するまで投げるができる。
- (9) 抗議のできる者は、代表指導者(監督)でなければならない。
- (10) 守備側及び攻撃側のタイムの回数制限
 - ① 代表指導者(監督) 1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークとなった場合は1イニングに1回行くことができる。ただし投手交代の場合は回数に含まない。5.10(2)は適用しない。
 - ② 捕手または内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数を3回以内とする。タイブレークとなった場合は、1イニングに1回行くことができる。
 - ③ 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なおタイブレークとなった場合は、1イニングに1回行くことができる。
- (11) 投手は、変化球を投げることを禁止する。投げた場合は次のペナルティを課す。
 - ① 投手が変化球を投げた場合、変化球に対してボールを宣告する。
 - ② 投手が変化球を投げた場合、投げないように監督及び投手に厳重注意する。注意したにも関わらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げた時は、その投手を交代させる。なお、その投手は他の守備につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することはできない。
- (12) 守備の時間が長い場合(概ね20分)には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。(試合時間には入れない)

4 指名打者の取り扱いについて 5.11(a)(b)

- (1) 指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手(5.11(b))は採用しない。

5 試合のスピード化に関する事項

- (1) 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に面したあと、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、走者が塁にいない場合は直ちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。

6 その他

- ・本競技規則及び取り決め事項によらない事項が生じた場合の対応については、主催団体間で協議し、決定するものとする。
- ・大会期間中の練習会場について
 - 【晴天の場合】レクザムスタジアム、県営第2野球場、多目的広場
※ バッティングを伴う練習や素振り等は安全確保のため禁止とする。
 - 【雨天の場合】雨天時に活動できる会場がないため、ありません。